

特集

バーチャルリアリティの広がり

バーチャルリアリティ（VR）を使うことで、こころとからだの新しい研究が可能となってきました。VRは1980年代後半に最初の脚光を浴び、2016年頃から一般消費者向けにもさまざまなハードウェアやコンテンツが提供され、一般的になってきました。アミューズメントパークやVR体験施設、家庭用ゲーム機で体験したことのある人も多いでしょう。

VRのアイコンはなんといってもユーザーの顔を覆う頭部搭載型ディスプレイ（HMD）だと思いますが、VRはそれだけではありません。心理学の研究においても、自由度の高い実験装置としてVRを利用した研究や、VRでしかできない体験を利用した人の心や行動の変化の研究が注目を浴びています。

今回の特集では、VRの歴史を含めた心理学との関係やVR技術の概観、認知研究におけるVRの活用方法やVRで可能となった人の認知の研究について紹介します。そして、VRを用いた感情誘導やアートの研究、精神医学や意識に関係する挑戦的な研究についても紹介させていただきます。

（北崎充晃）